

東京大学

理学部広報

第3巻 第1号 昭和46年1月15日

内 容

新年を迎えて	2
理学会合日誌	2
教授会メモ	2
昭和46年度科学研究費(一般研究)	3
学部長と理職との交渉	3
久保理学系研究科委員長と理系院生との討論集会	3
教官人事異動	3
外国人研究員	3
理学博士学位授与者	4
理学部ところどころ: ダイバーズの像	4
お知らせ	5

新年を迎えて

この広報の新春号に何か、という編集子の御注文でした。あらたまって何を申すのも気がひけますが、何はともあれ、この1年が皆さんの一人一人に充実した年でありますように、またこの理学部にとってもそうでありますように心から願いたいとおもいます。

この広報をはじめたのは2年前、あわただしい中に、いくらかでも理学部の中に風を通さなければ、ということでした。2代の編集委員の御努力でこの広報もそれなりの役割を果たしてきましたが、今後、さらに発展することが必要でありましょう。殊に、大学改革の問題が、いろんな形で動き出すとき、広報の地味な存在が理学部としても大きな力となると思います。

この2年あまり、今まであまり語る機会のなかったものですが、とにもかくにも率直に話しあうようになったことは、大きな犠牲から得られた一つの収穫であったと思います。人々はまた、それぞれの殻に籠ることもあるでしょうが、率直に語ることのむずかしさとその貴重さは、これからも時として苦い味をもってかみしめなければならぬでしょう。

これからの大学の進む道の選択には大へん困難なものがあります。その選択も必ずしも一朝に成るものではなく、試行錯誤の複雑な屈折を経てゆくでしょうし、何日になっても完了することはないでしょう。大学は社会の一つの要素であり、生きている社会に完成はあり得ないでしょう。いつの時代も、かつてなかった時代であると同時に、歴史の繰返しもあります。そのいろんな位相の中で、現在が際立った危機の時代であることは今日では誰の目にも明らかでしょう。人類が果してそれを生き抜くか、私には楽観できません。しかし、知によって生き抜くほかに道がないとすれば、ここの理学部に学ぶ若い世代に托する望みははなはだ大きいと思います。新年を迎えて皆さんの将来を祈る所以です。

久保亮五

昭和45年12月理学部会合日誌

- 7日(月) 12:00~14:00 情報科学連絡委員会
9日(水) 13:30~16:00 主任会議
15:00~17:00 入試委員会
14日(月) 14:00~16:30 教務委員会
14:00~17:00 理学系研究科委員会
16日(水) 13:00~17:00 教授会

- 21日(月) 12:30~13:30 理職との会見
11:00~14:00 情報科学連絡委員会
22日(火) 10:00~12:00 会計委員会

教授会メモ

12月16日(水) 定例教授会 於 物理新館会議室

1. 前回の議事承任
2. 人事異動等報告
3. 学部学生卒業の件
化学科四年 南 一郎 の卒業(昭45.12.31日付)が認められた。
4. 教職免許状に関する専門科目の単位認定の件 理学部規則の一部を改正する件について地球物理、植物、人類、地質・鉱物の各教室より説明があった。
5. 雑件報告
 - 1) 震研の問題
11月29日、30日の警察力の出勤およびこれに関連した事態について学部長より説明があった。
 - 2) 受託研究取扱規則
依頼された研究を公務として行なう場合が受託研究であるが、その具体的な範囲について説明があった。内容は学内広報 No. 98, p. 2 に掲せてあるので参照されたい。
 - 3) 科研費
科学研究費一般研究AおよびBの学内順序について報告があった。
 - 4) 教養学部図書館の充実計画について今井教授より説明があった。
 - 5) 国大協関係 第1常置委員会からの「高等教育の改革に関する基本構想に対する見解(未定稿)」、第47回総会の「国立大学の授業料についての見解」の紹介があった。
 - 6) その他
各教室で廃棄物など十分注意されるよう学部長から要請があった。
 - 7) 教務関係 教務委員会報告(理広報2巻11号に既報)および理IVに関するアンケートについて大木教授から説明があった。
 - 8) 幹事会報告
総長選挙に関するアンケートの回答について幹事長(宮沢教授)より報告があった。集計内容については理広報2巻11号にすでに掲載されているがさらに種々の意見を添えて改革委員会に提出してある旨の報告があった。

9) 改革問題 植村教授より説明があった。詳細は次号に掲載の予定。

学部長と理職との交渉

昭和 45 年 12 月 21 日学部長と理職との定例交渉が行なわれた。

前回の交渉以来懸案となっていた年次休暇願の様式、植物園の臨時職員賃金、公務員試験合格者の定員化の問題について事務長から回答があった。

組合側から、植物園の臨時職員の賃金を来年 4 月から上げるならば、直ちに昇給させるべきであると主張したが、学部長は、これは植物園でよく話された結果きまったものである旨説明した。組合は臨時職員給与の頭打ち打開のため策を講ずべきであることおよび臨時職員定員化のルールをつくる必要があることを主張したが、学部長はこれらの問題が簡単ではないことを指摘した。定員がないのに作業員を雇うのは適当でなく、定員増をはかるべきであるとの意見に対しては、毎年概算要求にもられているが、実現がなかなか困難であることの説明があった。また、組合から行(一)、行(二)の頭打ち該当者を調べて知らせしてほしい旨の希望が述べられ、事務部において調査回答することとした。

昭和 46 年度科学研究費一般研究

理学部から以下のような研究が一般研究 A および B として申請されています。

研究題目	教室	研究担当者
反陽子と陽子との反応による中間子の研究	物理	山本 祐靖
岩石鉱物の微細構造および物性による地球惑星内部構造の研究	地球	斎藤 正徳
金属-金属間結合を持つ錯体の研究	化学	佐々木行美
分子分光法による触媒反応機構の動的的研究	化学	田丸 謙二
蛋白質の高次構造に関する研究	生化	野田 春彦
動物細胞の分化および増殖制御の分子的機作に関する研究	動物	寺山 宏
以上 A		
数値物理学の位相解析的・数値解析的研究	数学	伊藤 清三
核磁性を手段とした非晶質磁性体の研究	物理	飯田 修一
天体重力波の検出	物理	平川 浩正
超高エネルギー μ 中間子相互作用の研究	物理	須田 英博
天体にあらわれる分子線スペクトルの研究	天文	山下 泰正
球状星団・光度関数と H・R 図	天文	下田 真弘
低速電子衝撃による気体分子の励起過程の研究	化学	朽津 耕三
測定装置の計算機オンライン化によるフーリエ変換磁気共鳴およびフーリエ変換ポーラログラフイの研究	化学	藤原 鎮男
分子内部回転に関する研究	化学	大木 道則
ポリヌクレアーゼ作用機構と作用モデルに関する研究 Oligonucleotide とその Analog の酵素および非酵素触媒反応の機構	生化	井上 康男
分裂細胞における分裂装置形成の分子機構	生化	酒井 彦一
植物細胞の代謝における細胞器官の相互関係	植物	佐藤 七郎
本邦新生代の火山岩・火砕岩およびそれに伴う鉱床中の微量元素の研究	地質	岩生 周一
環境変化に應ずる動物の反応系	臨海	平本 幸男
以上 B		

久保理学系研究科委員長と理系院生との 討 論 集 会

理系大学院自治会からの申し入れにもとづき上記の会が 12 月 23 日 (水) 午後 1 時より約 2 時間 30 分にわたって理学部会議室において行なわれた。出席者は久保委員長、大木、秋田両評議員、門司協議員、桑原学生委員、大森自治会委員長他院生約 10 名であった。

討論の対象としては、国立大学授業料値上げに対する理教授会の態度、総長選挙特に総長の権限と総長候補者に関する information の問題、震研の状況生化学人事の問題がとり上げられた。

教官人事異動 (除退・休職)

氏名	所属	発令事項	発令年月日
久城 育夫	地 質	講師に昇任	45. 11. 1
岡村富士夫	鉱 物	助手に採用	45. 11. 15
鈴木 保典	地 物	助手に採用	45. 12. 1

外国人研究員

教室	国籍	氏名	現職	在留期間
動物	フランス	Anne Jacquier	フランス国立中央科学研究所研究員	45.11.24 ? 46. 1.23

理学博士学位授与者 (45. 12. 14)

専門課程	氏名	論文題目	学位授与年月日
化学	中島 照	A Study of Fluorescence Quenching by Foreign Substances in Solution	45. 12. 14
学位規則第3条2項該当 (論文博士)	堤 和 男	Physicochemical Studies on Surface Reactivity of Crystalline Powders	45. 12. 14
同	渡 辺 二 郎	Nonlinear Contraction Semigroups and Convex Functions	45. 12. 14
同	河 井 壯 一	On Compact Complex Analytic Manifolds of Complex Dimension 3	45. 12. 14
同	飯 高 茂	On D-Dimension of Algebraic Varieties	45. 12. 14
同	若 林 久 夫	臭化ナトリウムと臭化銀中の Mn^{++} の電子スピン共鳴	45. 12. 14
同	高 見 徹	膵臓タンパク質分解酵素に関する研究 (カリクレインの性質と阻害剤の探究並びに不溶性酵素の特性)	45. 12. 14

理学部ところどころ

ダイバースの像

化学教室の中庭にダイバースの像がある。この種の銅像としては理学部で唯一のものである。Edward Divers (1837~1912) はイギリスの化学者。1873年(明治6年)日本に招かれて、当時の工部大学校で化学を教えたが、1886年(明治19年)学制改革によって帝国大学理科大学(現在の理学部の前身)が開設されたときこれに移り、それ以来 1899年に帰国するまで合わせて 26年間日本



ダイバースの像

にとどまり、黎明期におけるわが国の化学研究の基礎をつくることに貢献した。その専攻は無機化学であって、特に当時助教授の坪和為昌との協同による窒素化合物に関する研究で大きな業績を残している。(筆者の研究室には当時の資料が未だに若干残っている)。日本に滞在中の 1893年にすでに F.R.S. に選ばれていることはダイバースが第一級の科学者であったことを示すものである。イギリスに帰国後は英国化学会の副会長や化学工業協会の会長などもつとめ、その死に至るまで活動をつづけたといわれている。(Prof. Edward Divers, F.R.S., Nature, 89 170 (1912); 松原行一: ダイバース先生の墓に詣でるの記, 理学部会誌, 第5号, 昭和2年3月)。

ダイバースの胸像は彼の帰国後知人門弟の懇意によって、理科大学の前面に建てられたのであったが、後化学教室が建築されたときその側面の運動場に面した位置に移された。その後、戦時中には撤去が命ぜられたが、ひそかに保存され、戦後現在の位置に再建されたのである。胸像は単にいわゆる銅像としてのみではなく、それは静かに美しく鑑賞に値する芸術作品である。この像には作者の名はきざまれていないが、当時の美術学校教授長沼守敬の作であるといわれている。(赤松秀雄)

情報科学集中講義

理学部広報第2巻第11号(昭和47年12月15日)でお知らせした情報科学に関する教科目に関し、下記の通り情報科学集中講義の受講者を募集する。希望者は1月

26日(火)までに理学部教務掛に履習届を提出すること。
 実習の都合もあるので募集定員は70名程度とする。受講希望者が定員を越えた場合は、調整の上次回の講義を受けていただくことになる場合もある。受講対象者には開講までに通知する。

講 師：東京大学理学部情報科学研究施設
 国井利泰 助教授

単 位：生物科学特論 XII (1単位)とする。

対 象：数学、物理学、天文学、地球物理学関係以外の、化学、動物、植物、人類、生化、地質、鉱物等の学部学生、大学院生等への基礎論

年月日：1971年2月1日(月)～5日(金)の5日間、原則として午後2時～3時30分まで講義、以後5時まで実習

場 所：東京大学理学部化学教室(室については決定次第掲示する)

テ ー マ	内 容
1. 情報とシステム	情報の意味、情報量、システムの構造と機能、システムと法則
2. コンピューターの機能と構造	ハードウェアとソフトウェアの概論
3-1. Computer Aided Experiment	その方法と効用、装置についてマン-マシンコミュニケーションの立場から具体的に説明する
3-2. Cost Performance	コンピューターを用いる場合の経済性について
4. 情報検索	情報の蓄積と検索法について、その目的と方法を人間の思考過程との関連において話す
5-1. 機械語	
5-2. アセンブラー語	
5-3. コンパイラー語 (FORTRAN)	
備 考	以上について5の実習も含めて具体的に解説する

お 知 ら せ

○昭和 46 年度国際研究集会研究員の派遣について

文部省大学学術局長より次のような通知がありましたのでお知らせします。

昭和 46 年度中に開催される国際研究集会に関し、別紙様式 1~4 の調書各 4 部を昭和 46 年 1 月 23 日(土)までに提出するものとする。ただし、上記期限後に招請状が到着した場合には、その到着の時機に応じて次のいずれかの期限までに関係書類を提出するものとする。

7 月 1 日以降に開催される集会については、4 月 10 日まで。

10 月 1 日以降に開催される集会については 7 月 10 日まで。

47 年 1 月 1 日~3 月 31 日に開催される集会については 10 月 10 日まで。

(提出書類)

1. 別紙様式 1~4 各 4 部
2. 招請状およびその和文訳 各 4 部

なお、別紙様式用紙は人事掛にあります。

○昭和 46 年度スイス留学生

専攻分野：人文科学、社会科学、自然科学

応募資格：年齢 35 歳未満の者

大学卒業者(学生・学者・研究者を優先)

締 切 日：1 月 20 日(水)

○昭和 46 年度イスラエル政府奨学金留学生

専攻分野：人文科学、社会科学、自然科学

応募資格：日本人で二重国籍を持たない者

大学卒業者 明年卒業見込者

締 切 日：昭和 46 年 2 月 3 日(水)

編 集 和 田 昭 允
 理・1号館 217号室 内線 2298